

- 問1 鎌倉時代の将軍と御家人の間には、土地を媒介とした主従関係が結ばれていました。将軍が御家人の功績を認め、先祖伝来の領地の所有権を保証したり、手柄を立てた者に新たな領地を与えたりする恩恵を何と呼びますか。 (2014年 愛媛公立入試 類似)
1. 奉公
  2. 地頭
  3. 御恩
  4. 守護
- 問2 12世紀後半、武士として初めて朝廷の最高職である太政大臣の位につき、日宋貿易を推進するなどして平氏の全盛期を築いた人物は誰ですか。 (2021年 愛媛公立入試 類似)
1. 平清盛
  2. 源頼朝
  3. 北条時宗
  4. 藤原道長
- 問3 承久の乱の戦後処理において、鎌倉幕府は大和(奈良県)、河内(大阪府)、備中(岡山県)、周防(山口県)、肥前(佐賀県・長崎県)といった西日本の多くの国々に、土地の管理や徴税を行う役職を配置しました。この状況について述べた文として正しいものはどれですか。 (2019年 島根公立入試 類似)
1. 西日本に地頭を置くことで、幕府は朝廷の勢力圏だった地域にも支配を及ぼすようになった。
  2. 幕府は西日本の支配を安定させるため、土地の管理をすべて現地の公家に一任した。
  3. これらの地域は幕府の直轄地となり、地頭ではなく守護がすべての年貢を徴収した。
  4. 西日本への支配拡大は一時的なもので、数年後にはすべての領地が朝廷に返還された。
- 問4 鎌倉幕府において、将軍と御家人は土地を仲立ちとした主従関係で結ばれていました。将軍が御家人の先祖伝来の領地の所有権を認めたり、手柄を立てた者に新たな領地を与えたりした行為を何といいますか。 (2018年 長崎県公立入試 類似)
1. 御恩
  2. 奉公
  3. 寄進
  4. 安堵
- 問5 鎌倉時代には、新たに政治の実権を握った武士の気風を反映し、力強く素朴な文化が発展しました。この時代を代表する建築物で、平氏による焼き討ちのあとに重源によって再建され、力強い彫刻作品が配置された建物の名称を次の中から選びなさい。 (2015年 富山県公立入試 類似)
1. 東大寺南大門
  2. 鹿苑寺金閣
  3. 慈照寺銀閣
  4. 平等院鳳凰堂
- 問6 源頼朝が、全国の国ごとに守護を、荘園や公領ごとに地頭を設置することを朝廷に認めさせた最大の狙いとして、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 源義経の追討を口実として、全国的な軍事・警察権や土地管理権を幕府が握るため
  2. 平氏の残党を完全に排除し、平氏が所有していた領地をすべて朝廷に返還するため
  3. 源義仲を討伐するための軍資金を、全国の農民から平等に徴収する仕組みを作るため
  4. 北条氏による執権政治を確立するために、朝廷が持つ裁判権をすべて鎌倉へ移すため
- 問7 鎌倉時代に成立した新しい仏教のうち、道元が伝え、ひたすら座禅に打ち込む「只管打坐(しかんたざ)」を説いた宗派を何といいますか。 (2021年 沖縄公立入試 類似)
1. 曹洞宗
  2. 臨済宗
  3. 浄土真宗
  4. 日蓮宗
- 問8 鎌倉時代の将軍と御家人の結びつきは、将軍が領地を保証・提供する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」という主従関係によって成り立っていました。元寇において、命がけで防衛戦に従事した御家人が、その後幕府に対して強い不満を抱くようになった最大の理由はどのようなものですか。 (2022年 島根公立入試 類似)
1. 他国からの侵略を防ぐ防衛戦であったため、恩賞として御家人に分け与えるための新たな領地が得られなかったから
  2. 元軍との戦いよりも貿易の継続を優先した幕府が、恩賞を支払うための予算をすべて外国との取引に回したから
  3. 多くの御家人が幕府の出陣命令を無視して戦いに参加しなかったため、幕府が制裁として所領を没収したから
  4. 幕府が元軍と密約を結び、戦いに貢献した武士ではなく、降伏した元軍の将軍たちに日本の領地を与えたから
- 問9 平安時代から鎌倉時代初期にかけての出来事である、坂上田村麻呂による東北地方への派遣、平将門による関東での反乱、源頼朝による奥州藤原氏の滅亡を、発生した時期の古い順に並べたものとして正しいものはどれですか。 (2017年 香川公立入試 類似)
1. 坂上田村麻呂の派遣 → 平将門の反乱 → 源頼朝による奥州藤原氏の滅亡
  2. 平将門の反乱 → 坂上田村麻呂の派遣 → 源頼朝による奥州藤原氏の滅亡
  3. 坂上田村麻呂の派遣 → 源頼朝による奥州藤原氏の滅亡 → 平将門の反乱
  4. 源頼朝による奥州藤原氏の滅亡 → 平将門の反乱 → 坂上田村麻呂の派遣
- 問10 鎌倉時代に制定された「御成敗式目(貞永式目)」について、その制定の背景や内容として正しい説明はどれですか。 (2026年 富山公立入試 類似)
1. 執権の北条泰時が、御家人たちの間で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。
  2. 江戸幕府の将軍が、全国の大名を統制するために、城の修理の制限や参勤交代の義務などを定めた。
  3. 聖徳太子が、官吏としての心得を説くとともに、仏教を敬い天皇の命令に従うことを求めて定めた。
  4. 徳川吉宗が、裁判の基準を統一して能率的に処理するために、過去の判例などをまとめた法律として定めた。
- 問11 東大寺南大門の金剛力士像に代表される鎌倉時代の彫刻は、それ以前の平安時代の優美な作風とは大きく異なります。この時期の造形表現の背景や特徴について述べたものとして、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 岡山公立入試 類似)
1. 新興の武士の気風を反映した、写実的で力強い表現となっている。
  2. 公家社会の好みを反映した、繊細で優雅な美しさを追求している。
  3. 禅宗の教えに基づいた、簡素で枯淡な美しさを表現している。
  4. 写実性よりも、仏教の神秘性を強調した抽象的な表現を重視している。
- 問12 1221年に起こった承久の乱の後、鎌倉幕府が朝廷の動きを常に監視し、あわせて西日本の政務や裁判を行うために京都に設置した機関はどれですか。 (2018年 滋賀公立入試 類似)
1. 六波羅探題
  2. 鎮西探題
  3. 評定衆
  4. 問注所
- 問13 源頼朝が設置した「地頭」という役職について、その役割や目的を説明したものとして、最も適切な内容を次の中から選びなさい。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
1. 各国の政治の責任者として、朝廷から派遣され地方行政全般を行った。
  2. 国ごとに一人置かれ、軍事や警察の仕事を指揮し、御家人を統制した。
  3. 荘園や公領に置かれ、年貢の徴収や土地の管理を行い、武士による土地支配を強めた。
  4. 有力な農民を直接支配し、幕府に代わって新しい田地を開発することを主な目的とした。

## 答え合わせ・解説

問1	答え 3 御恩	鎌倉時代の主従関係は、将軍からの恩恵である「御恩」と、それに応える御家人の義務である「奉公」によって成り立っていました。御恩には、先祖伝来の所領を認める「本領安堵（ほんりょうあんど）」と、軍功に対して新しい領地を与える「新恩給与（しんおんきゅうよ）」の2種類があります。地頭や守護は役職の名前であり、その地位に任命されることも御恩の一環でしたが、制度全体の名称ではありません。
問2	答え 1 平清盛	平氏は、保元の乱や平治の乱を経て政治の実権を握りました。一門で高位高官を独占し、大輪田泊を整備して宋（中国）との貿易を盛んに行うことで経済力を蓄え、武士による政治の先駆けとなりました。藤原道長はそれ以前の摂関政治の全盛期を築いた人物です。
問3	答え 1 西日本に地頭を置くことで、幕府は朝廷の勢力圏だった地域にも支配を及ぼすようになった。	承久の乱以前、幕府の支配力は東国が中心であり、西日本は依然として朝廷や公家の影響力が強い地域でした。しかし、乱の勝利によって大和や河内、さらに九州の肥前に至るまで広範囲に幕府側の地頭が置かれたことで、全国的な武家政治の基礎が固まりました。あわせて京都には、朝廷の監視と西日本の統括を行う六波羅探題が設置されました。
問4	答え 1 御恩	鎌倉幕府の基盤は、将軍と御家人の間の「御恩」と「奉公」という主従関係にありました。将軍側が行う、御家人の領地を保護・付与する行為が「御恩」と呼ばれます。具体的には、元々持っていた土地を保証する「本領安堵」や、戦功に対して新しい土地を与える「新恩給与」がありました。これに対し、御家人が軍役や番役を果たすことが「奉公」です。
問5	答え 1 東大寺南大門	鎌倉時代、源平合戦の際に焼失した東大寺の復興が進められました。その代表的な建築が東大寺南大門です。これに対し、金閣は室町時代の北山文化、銀閣は同じく室町時代の東山文化、平等院鳳凰堂は平安時代の国風文化を代表する建築物です。
問6	答え 1 源義経の追討を口実として、全国的な軍事・警察権や土地管理権を幕府が握るため	源頼朝は、対立した弟の源義経を捕縛するという「軍事的な必要性」を名目にして、守護・地頭の設置を朝廷に認めさせました。これにより、幕府は地方の軍事・警察権（守護）や、土地の管理・年貢の徴収（地頭）を通じて、全国の武士や土地に対する支配力を急速に強めることに成功しました。これは、単なる個人の追討を超えた、武家政権の基礎を固める重要な政治的制度でした。
問7	答え 1 曹洞宗	道元は宋（中国）に渡って禅を学び、帰国後に曹洞宗を広めました。道元は、悟りを得るための手段として何かを祈るのではなく、ただひたすら座禅を組むことを重視しました。これに対し、同じ禅宗でも栄西が伝えた臨済宗は、師からの問いに答えながら悟りを目指す手法をとり、幕府との結びつきを強めました。
問8	答え 1 他国からの侵略を防ぐ防衛戦であったため、恩賞として御家人に分け与えるための新たな領地が得られなかったから	鎌倉幕府の支配体制は「御恩と奉公」という双方向の契約で成り立っていました。通常、国内の乱などでは敗者から没収した土地を恩賞（領地）として配分できましたが、元寇は外国を追い返す防衛戦であったため、戦勝しても奪える土地がありませんでした。多額の戦費を自ら負担して戦った御家人に対し、幕府が十分な報酬を与えられなかったことが、幕府の権威を失墜させる決定的な要因となりました。
問9	答え 1 坂上田村麻呂の派遣 → 平将門の反乱 → 源頼朝による奥州藤原氏の滅亡	8世紀末から9世紀初めの平安時代初期、桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂が征夷大將軍として東北地方へ派遣され、蝦夷（えみし）の抵抗を抑えました。その後、10世紀中ごろの平安時代中期には、地方政治の乱れを背景に関東で平将門が反乱を起こし、武士の力が中央に知れ渡るきっかけとなりました。そして12世紀末、源頼朝が壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼした後、奥州藤原氏を討伐して鎌倉幕府による支配を全国へと広げました。
問10	答え 1 0 執権の北条泰時が、御家人たち間で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。	鎌倉時代初期の武士の間では、土地の境界や所有権をめぐる紛争が絶えませんでした。北条泰時は、それまでの貴族の法律（律令）ではなく、武士の実情に合わせた裁判基準を成文化することで、幕府の裁判に対する信頼を高めようとした。この法律は、後の室町幕府や戦国大名の分国法にも大きな影響を与えました。
問11	答え 1 1 新興の武士の気風を反映した、写実的で力強い表現となっている。	鎌倉時代の文化は、それまでの貴族中心の文化とは異なり、新たに政治の実権を握った武士の精神が色濃く反映されています。彫刻の分野では、運慶らが金剛力士像で見たような、解剖学的な正確さや激しい動き、生命力あふれる写実的な表現が主流となりました。これに対し、繊細で優美な表現は平安時代の国風文化などの特徴であり、簡素で枯淡な美しさは室町時代の東山文化などに見られる特徴です。
問12	答え 1 2 六波羅探題	承久の乱で後鳥羽上皇の軍に勝利した幕府は、朝廷を厳しく監視すると同時に、それまで影響が弱かった西日本の武士を統制する必要に迫られました。そのため、京都の六波羅にあった平氏の旧跡に北条氏の一族などの有力な御家人を常駐させ、西日本の軍事・行政・司法を担わせました。
問13	答え 3 3 荘園や公領に置かれ、年貢の徴収や土地の管理を行い、武士による土地支配を強めた。	地頭は、源頼朝が義経追討などを名目として朝廷に認めさせた役職です。それまで荘園領主（貴族や寺社）が持っていた土地支配の権限に幕府が介入することを可能にしました。地頭が年貢を徴収し、土地を管理する実権を握ることで、武士が社会の主導権を握る基盤が作られました。